

共愛学園前橋国際大学

「地(知)の拠点整備事業」
平成26年度実施報告書

平成27年3月

共愛学園の「地(知)の拠点整備事業」～連携から一体へ～

1888年(明治21年)以来、126年間一貫して「地域との共生」に取り組んできた共愛学園を母体とする共愛学園前橋国際大学は、「地域社会の諸課題に対処できる人材の養成」を目的に、地域志向を最重要の柱に位置付けて教育・研究・社会貢献を展開してきました。本学が地域と共に推進する事業のコンセプトは、「地学一体」です。

地域の課題解決と発展、地域人材の育成のためには、大学は大学で地域は地域で取り組むのではなく、共に主体となって一体的に取り組む必要があります。連携という関係から、一体という関係へと、進化/深化させるべく行ってきた本学の「地(知)の拠点整備事業」の初年度の実績を本書にてご報告致します。

内容

I. 実施体制

COC推進本部を前橋市と一体的に設置

II. 教育

Regional Project Work (RPW)

長期インターンシップ

III. 研究

地域志向教育研究支援制度

IV. 地域共生

平成26年度の主な地域共生活動一覧

V. 広報活動

シンポジウム「グローバル人材について考える」開催

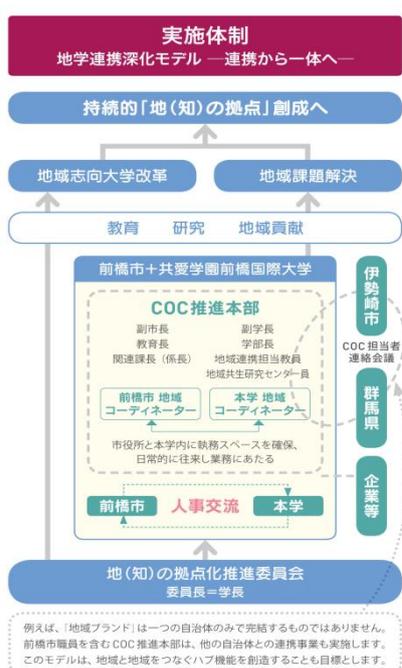
COC事業専用Webサイト開設

I . 实施体制

COC 推進本部第一回会議(設置会議)開催

平成 26 年 2 月 2 日

前橋市と本学は、持続的な「地(知)の拠点」を創生するための地学一体化プロジェクトを円滑に進めるため、COC 推進本部を合同で設置しました。前橋市と本学は、地域の課題解決や発展に向けて、人事交流を行いながら一体となって取り組んでいきます。



当日の出席者

前橋市

細野初男(副市長)、佐藤博之(教育長)、関谷貴(政策部長)、静知明(文化スポーツ観光部長)、中島實(教育委員会教育次長)、宮崎徹(教育委員会指導担当次長)、橋本誠次(政策推進課長)、湯浅真一(文化国際課長)、大井利之(学校教育課長)、小野里悟(生涯学習課長)、山口和良(青少年課長)、原田陽一(政策推進課政策推進係長)、小林美紀(地域コーディネーター担当職員)

本学

平田郁美(学長)、大森昭生(副学長)、西川正也(国際社会部長)、古田健(事務局長)、佐藤高司(学長補佐)、奥山龍一(地域連携担当教授)、樋口匠(地域コーディネーター)、野口華世(地域共生研究センター教員)、塩田正美(地域共生研究センター職員)、堀田誠(COC推進本部事務局統括代理)、岡田佳子(COC推進本部事務局員)

共愛学園前橋国際大学・前橋市COC推進本部設置要綱

(目的)

第1条 共愛学園前橋国際大学と前橋市は、「地域（産業）人材の育成」と「地域ブランド向上」の地域課題解決を含む、地域の発展に寄与する取組を展開するために、持続的な「地（知）の拠点（COC）」を創成する地学一体化プロジェクト（以下「本事業」という。）を推進する。

(設置)

第2条 本事業を推進するため、共愛学園前橋国際大学と前橋市はCOC推進本部（以下「推進本部」という。）を一体的に設置する。

(所掌事項)

第3条 推進本部は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 本事業に関する重要事項及び総合調整に関すること。
- (2) その他本事業の推進に必要な事項に関すること。

(組織)

第4条 推進本部は、本部長、副本部長及び本部員で構成し、別表1に掲げる職にある者をもって充てる。

- 2 本部長は、推進本部の事務を統括する。
- 3 副本部長は、本部長を補佐し、本部長が不在のときは、その職務を代理する。

(ワーキンググループ)

第5条 推進本部の運営を円滑に行うため、推進本部の下にワーキンググループを置く。

- 2 ワーキンググループは、座長、副座長及びメンバーで構成し、別表2に掲げる者をもって充てる。

(会議)

第6条 推進本部の会議は、本部長が副本部長と協議して随時招集する。

- 2 本部長又は副本部長のいずれかが必要であると認めるときは、本部員以外の者を会議に出席させ、その意見又は説明を求めることができる。

(事務局)

第7条 推進本部に事務局を置く。

- 2 事務局の運営は、共愛学園前橋国際大学COC推進本部事務局において行う。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、推進本部の運営に関し必要な事項は、本部長及び副本部長が協議して定める。

II. 教育

Regional Project Work (RPW)

RPWとは、学生が地域の課題解決等に半年間をかけて取り組む活動のことです。地域が抱える課題を掘り起こし、解決策を考えて行動します。地域や企業の課題をテーマとして活動することで、実際の社会の仕組みや問題点を知り、それに取り組む人々との協働・交流を通して、地域の人材としての自覚や行動力を養います。

RPWは平成27年度より導入され、本年度はその準備期間として下記の団体と連携について協議を重ねました。

前橋文学館

所在地 群馬県前橋市千代田町 3-12-10

Web URL www15.wind.ne.jp/~mae-bun/



○月○日に、前橋文学館の齋木館長を招いてRPW参加希望の学生とワークショップを行いました。ワークショップの中では、前橋文学館の活性化のための施策を検討し齋木館長と意見交換をおこないました。

NPO 法人いせさき NPO 協議会 社会貢献ネット

所在地 群馬県伊勢崎市除ヶ町

Web URL www.imap.ne.jp/mt/group/695/main



長期インターンシップ

これまで本学では、学生の約半数が2週間の短期インターンシップを経験してきました。この実績を基盤に、インターンシップの本来の趣旨である「職業意識の育成」「職業適性の確認や将来設計」「社会で生きる力の育成」を深化させるために、長期インターンシップを平成27年度より導入するため、下記の企業などに受け入れのための協力依頼を致しました。

一般社団法人サンデン環境みらい財団

本部所在地 群馬県伊勢崎市寿町20番地

Web URL www.sanden-kankyomirai.or.jp/

相模屋食料株式会社

本社所在地 群馬県前橋市鳥取町123

Web URL sagamiya-kk.co.jp/

司建設株式会社(エアムーブ住宅)

本社所在地 群馬県沼田市桜町4860-1

Web URL www.airmove.co.jp/company/index.html

NPO 教育支援協会北関東

本社所在地 群馬県前橋市下大島町746-1

Web URL www.kyoikushien-kitakanto.com/inquiry.html

前橋市役所

所在地 群馬県前橋市大手町2-12-1

Web URL www.city.maebashi.gunma.jp/

前橋市児童文化センター(前橋市教育委員会)

所在地 群馬県前橋市西片貝町5-8

Web URL www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/230/257/005/p010919.html

Ⅲ. 研究

地域志向教育研究支援制度

平成 26 年 2 月 6 日から共愛学園前橋国際大学地域志向教育研究支援制度が施行されました。

この制度は、本学の地域連携教育、地域課題研究をより一層促進するために、本学教職員が行う際に、その教育・研究に係る費用を助成するもので、本学の専任教職員すべてに応募資格があります。

助成対象は、下記です。

- 地域連携による教育
- 地域振興に係る教育・研究
- 地域課題解決に係る研究

また、前橋市、伊勢崎市、群馬県に在する自治体や地域団体・企業・NPO 等と連携を条件としています。

助成金額は、1 件につき 30 万円を上限としていて、本年度は地(知)の拠点化推進委員会※の審議のもと下記の 6 件を採択致しました。

※学長を委員長とする COC 推進のための学内委員会

●オール前橋魅力発見プロジェクト

代表者 兼本雅章(情報経営コース) 連携先 ルパティスリーヒデなど

●“地域づくり辞典” づくり

代表者 呉宣児(国際コース) 連携先 前橋市地域づくり連絡会

●ぐんま方言フェスティバルプロジェクト

代表者 佐藤高司(児童教育コース) 連携先 前橋市児童文化センター

●伊勢崎市小・中一貫英語力向上カリキュラムの作成学生による地域(商店街)

代表者 小林恵美(英語コース) 連携先 伊勢崎市教育委員会など

●学生による地域(商店街)再生の実現可能性調査研究プロジェクト

代表者 村山賢哉(情報経営コース) 連携先 株式会社上毛新聞社

●オープンデータの活用による前橋市の活性化に関する研究

代表者 小柏伸夫(情報経営コース) 連携先 前橋市役所情報政策化

採択された研究は、平成 28 年 3 月 31 日までに実施報告書の提出を義務付けられています。

IV. 地域共生

<平成 26 年度の主な地域共生活動>

科目名	概要	のべ参数 H26 年度
きょうあい子育てひろば 託児養成講座	子育て全般の課題や社会状況、そして子育てする人を支援する心構えなどをもう一度学び、実践に取り組む講座	18
えいめい・きょうあい 子育てひろば ファーストステップ	子育ての知識と知恵と元気を分かち合い、おいしいお茶と素敵な音楽も楽しめる子育て支援プログラム（前橋市公民館共催）	124
きょうあい子育てひろば セカンドステップ	母親という立場や悩み、父親という立場や悩み、家族の関係など周囲の変化と関連させながら考え、悩みや疑問を一人で抱えないで共有し、少し視点を変えて考える	163
きょうあい子育てひろば サードステップ	今という時間と未来という時間。まだまだ続く子育てと自分の人生。時間軸の上を大きな視点で考えていく講座	145
きょうあい子育てひろば ファーストステップ	子育ての知識と知恵と元気を分かち合い、おいしいお茶と素敵な音楽も楽しめる子育て支援プログラム	180
しぶかわ子育てひろば ファーストステップ	子育ての知識と知恵と元気を分かち合い、おいしいお茶と素敵な音楽も楽しめる子育て支援プログラム（渋川市共催）	120
しぶかわ子育てひろば サードステップ	母親という立場や悩み、父親という立場や悩み、家族の関係など周囲の変化と関連させながら考え、悩みや疑問を一人で抱えないで共有し、少し視点を変えて考える。（渋川市共催）	126
前橋学 「楫取素彦から 生糸産業まで」	2014年6月には富岡製糸場と絹産業遺産群が世界文化遺産に登録され、注目されている、また2015年の大河ドラマは、明治のはじめ群馬県令（今の県知事）であった楫取素彦の妻が主人公であり、今、まさに注目を集めている近代の前橋について全3回の講座をとおして、様々な視点から学んでもらう市民講座	630
放課後イングリッシュ	小1～小3を対象とした英語教室 （NPO 教育支援協会共催）	720
群馬現代史研究会	占領期から本格的に進め、その歩みを実証的に明らかにし、地域社会の変遷と県民生活の変化を学ぶ目的で、本学の教員が中心となり研究会を設立し、年に数回開催している	50
高大連携コラボゼミ	群馬県少子化対策青少年課からの委託として、次世代を担う若者にライフデザインについて考える機会を創出する講座を実施した。	400
テラコッタ彫刻入門	テラコッタ彫刻をとおして、地域の方とふれあいを深め、ものを作る楽しさを体験	4
永明小との合同合唱祭	永明小学校の合唱団、本学聖歌隊、地域のコーラスサークル合同で合唱祭を永明小と本学共催で開催した。	200

「平和論」の公開授業	陸前高田ドキュメンタリー映画「あの街に桜が咲けば」を上映し、一般の方にも震災を通して防災を考えてもらいました。	50
神田外語共催公開講座	神田外語大学と共催で英語教育の公開講座を本学と合同で開催	175
ナナメの関係と学校教育	本学学生プロジェクト主催でNPO 法人カタリバの寺脇研氏を招いて、教育問題を考える講演を開催した。	
「共生の教育」公開授業	身体障害について考える一般向け講座を開催	2
パソコンはじめて講座	パソコンの基礎、タイピング、インターネットの基本を学ぶ。地域受講生と本学サポート学生との世代間交流も目的である（前橋市公民館共催）	100
「ジェンダー論」公開授業	トランスジェンダーの方に「性の多様性と子育て」を主なテーマとして講演いただき、ともに考える授業である	30
やる気の木「スーパースター」上映会	学生プロジェクトで作成した映画を上映し、地域の方を触れ合う機会を作った	100
前橋市タウンミーティング	前橋市の初めての大学でのタウンミーティングを本学で開催。学生代表と市長のトークセッション等を行った。	112
発達心理学公開講座 「親になる」ってなんだろう	本学の「発達心理学」の授業を公開し、今後子どもを産み育てたい方に「親になること」について考える機会として頂きました。	0

その他

学生ボランティア派遣 のべ199人

主な派遣先

前橋市内小中学校、伊勢崎市内小中学校、太田養護学校、群馬県青少年会館、群馬県立自然史博物館、群馬県立近代美術館、群馬県警、前橋市社会福祉協議会、みどり市男女共同参画センター、前橋市男女共同参画室、高崎市、渋川市、観音山ファミリーパーク、NPO 教育支援協会、前橋市赤城少年自然の家、渋川北毛病院、老人福祉施設、多言語文化研究所、駒形町自治会、しろがね学園、群馬クレインサンダーズ、ザスパ草津、等

V. 広報活動

平成 26 年 3 月 6 日

シンポジウム「グローバル人材について考える」開催

本学においてシンポジウムが開催されました。本シンポジウムでは本学で実施したこれまでの様々な取組を報告するとともに、本学が目標に掲げる「グローバル(Global+Local)人材育成」について様々な視点から考察しました。

パネルセッションには、みなかみ町アウトドア会社の株式会社キャニオンズ代表取締役社長のハリス・マイケル・ジョンさん、三洋電機株式会社の三田幸治さん、前橋市の佐藤博之教育長、本学の大森昭生副学長が登壇し、「グローバル人材」をテーマに意見を交わしました。

講演においては、ハリスさんには「海外から群馬へ」、三田さんには「群馬から海外へ」の視点からそれぞれお話しいただきました。

後半には、本学学生が地域と連携して取り組んだ活動も紹介され、来場された約 120 名の皆様に、日ごろ本学で学ぶ学生の姿を見ていただく良い機会となりました。



パネルセッション「グローバル人材を考える」



学生による地域と連携した活動の紹介



ハリスさんによる「海外から群馬へ」



三田さんによる「群馬から海外へ」

平成 26 年 3 月

COC 事業専用 Web サイト開設

URL <http://coc.kyoai.ac.jp/>